

# JIA 長野県クラブ 32

社団法人 日本建築家協会

1998. 9. 1

アーキテクツ・ガーデン  
'98  
(東京・新宿)



◀ 第一回広報委員会  
(松本市内・7/22)



▶ (仮称) 建築家カタログ部会  
(伊那市内・7/16)



## 夢ばんち一丁目

副会長 松下重雄

「夢ばんち一丁目」とは、地名ではありません。そこは、障害を持つ人・その家族・支援グループの人々が街の中へ出て地域の人々と交流する拠点。

ある日、障害者支援グループの友人達から「彼らの情報コーナーであり、何よりも安心して働けるお店があったらどんなに楽しいだろう。是非手伝って欲しい」と頼まれました。

空き家になっている鉄骨3階建ビル1階の20坪に満たない部屋は、もともと焼肉屋と印刷会社があった場所です。仕切りの床は20cm程の段差があり、焼肉屋があったところにはタタミの小上がりまでついていました。また、それぞれに小さなトイレがついていました。

とてもこのままでは障害者の拠点にはならないと思い、早速現地調査をして現況図を作りました。ワークショップ形式でみんなの夢を語ってもらい、改築案を深夜までかけて何度も検討し合い、構想ができました。

障害を持つ子供を抱えたあるお母さんは、「子供が大きくなって、自分で作ったものがたとえ百円でも千円でもここで売れて、自立のきっかけになってくれれば…」と真剣そのものでした。そして吉田光さん(重い障害で車椅子生活)は、「夢の第一歩がここから始まる。一つの夢が実現したら、また新たな夢に向かって歩いていきたい」と、「夢ばんち一丁目」のネーミングの提案とテーマソングの作詞までしてくれました。

店舗は真っ四角な箱を連続させた家具をつくり、障害

者一人でもお店が開けるように、能力に応じた数の升目を譲り合って使ってもらうことにしました。メインとなる二つの家具は、赤と緑の対比でインパクトを与え、トイレは、障害者用に大きく改修し、内外壁にはOSBを張って、ややもすると暗くなりがちなムードをモダンな明るいインテリアとしました。

工事に先立ち、建材屋さん、電気・設備工事店、家具屋さん等に主旨を話すたびびっくりする程一様に理解して下さり、特別価格での協力を約束してくれました。また、床の解体や壁・天井のクロス剥がし、土間のコンクリート打ち、家具の塗装やコルク貼りなどできることはすべて自分達の手造りとしました。私も一緒に汗水をたらして、なんとか予定通り7月18日、19日に開店の運びとなりました。

「すてきなお店をつくってくれて、ありがとう…」。軽い知的障害者のヤスさん(会合では冗談ばかりいって邪魔をしていた)からオープニングセレモニーで手渡された感謝状は宝物です。障害を持った人や、彼らを取り巻く大勢のボランティアに知り合えたことだけでも幸せでしたが、こうして自分の職能が社会に活かされて喜ばれ、それが実感できたのは何よりでした。そして、これからは彼らの身近なところにおいて何でも相談にのってあげられるように『みずび住まい何でも相談室』をこのお店の隅っこに開設してもらいました(設計監理料の代わりにです)。あちこちでこんな輪が広がり、やがて二丁目、三丁目と「夢」が実現するとよいと思います。



## 委員会活動に 期待して

会長 出澤 潔

総会において本年度事業計画が承認され、委員長を中心とした各委員会の積極的な活動が始まりました。

クラブの総合的事項の協議の場である幹事会に対して、委員会は担当する事業を企画立案し、必要に応じて幹事会に諮り具体的に事業を実施する役割を担っています。各委員会の活動がJIA長野県クラブの活動そのものでありますので、あらためて委員の皆様のご協力、ご努力を切にお願い申し上げます。

本年度は5常設委員会と1特別委員会で事業を実施いたします。

昨年までの建築家カタログ作成検討特別委員会は委員各位の長い間の大変なご尽力によって方向づけをして頂くことができました。委員会の目的が完了しましたので、会員委員会に作成実施部会を設置し、発行に向けて具体的な展開をすることとなりました。

委員会構成に関する幹事会の意見を尊重し、本年度は相談役以外の全会員が委員会に所属し、クラブ事業への参加をお願いすることと致しました。お一人、お一人の積極的な参加と密度の高いコミュニケーションを通して、身近なクラブにして頂きたいと思っております。



## 懸案事項に 取り組み

総務委員長 関 邦 則

総務委員会の担当する守備範囲はなかなか広い。総会や幹事会等の各会議の運営からクラブ運営のための懸案事項の検討、支部アーキテツ・ガーデンへの協力、事務局業務のサポート等まで行うことになっている。これまでは定款及び規則の改定、入退会に伴う事務処理の適正化、選定議員会の開催、会計支出削減策などについて検討実施してきた。総務委員会がなかった頃からみると徐々にクラブとしての体裁が整ってきたのではないかと思います。会計についても総会資料を見ていただいております。会計についても総会資料を見ていただいております。会計についても総会資料を見ていただいております。

現在のところ、委員会として急務的な課題はなさそうだが、懸案であった事務所会員及び賛助会員の会費の自動引落し制度の導入について検討していきたい。簡単に足並みをそろえていくことは難しいかもしれないので、経験豊かな委員会メンバーや広く会員の皆様のご意見を大切にしながら慎重に進めたい。

事務局にはコンピューターや新しいFAXが入り会員の皆さんへのサービスが向上しつつあります。



## さらなる 交流を深めて

交流委員長 高橋 重徳

現在の私達を取り巻く状況は、経済を中心にすべてが新しい時代へのプロローグとも受けとめられます。建築・組織・人間関係なども全く同じ状況にあります。

会としては、さらなる交流を深めるために会員相互のコミュニケーションは勿論、その在り方についてもあらためて新しい方向を考える時期と考えています。

おかげさまで「事務所会員・賛助会員コミュニケーションファイル」の作成に当たりましては、皆様のご協力で1回目をまとめることができました。各々の創意工夫で大いに活用頂きますようお願い致します。委員会としてもファイルへの全員参加を目標に、さらに内容を充実させながら継続していく予定です。

また、毎年行っております「技術交流会」につきましても、今年は少し指向を変えて正会員の皆様に多数ご参加頂けるよう工夫してまいります。本年度は交流委員会の方々も大勢になりました。まずは、会員の皆さん全員が会の事業に参加し“交流”を深めタイムリーな情報交換をしていただくことをお願い致します。



## 心底話し 合える会に

会員委員長 松下 重雄

引き続き、会員委員長を仰せつかりました。

さて、当委員会は事業が多いうえ、今期は(仮称)建築家カタログ発刊を担当することになりました。皆様のご協力を得て難局を乗り越えたいと存じますので何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。ところで、同業者はたくさんいますが、建築のことを心底話し合えたり、腹を割って悩みを相談できる仲間が近くにいらっしゃいますか?当クラブはそんな仲間が年々増えてきたように思います。

これからもますます居心地の良い会であるように努めるとともに、県内の仲間を増やしていきたいと思っております。新しく委員を委嘱された方々には仕事がお忙しいとは思いますが、縁の下の力持ちとしての委員会ですが、楽しくやっていますので敷居が高くないうちに一度出席してみてください。担当の事業は次の通りです。

1. (仮称)建築家カタログの発刊に向けて
2. あすなる巡回展
3. あすなる見学会
4. 本音で語ろう会
5. 会員の増強推進と環境づくり



## 意義ある コンクールへ向けて

事業委員長 上村保弘

### 1、学生卒業設計コンクール

本年、東京の学生コンクール審査会のオブザーバーとして出席させていただきました。出展数が豊富なこともあり、目をみはるような作品に出会うことができました。同時にうらやましくもありました。単なる卒業設計だけではなく、明らかにJIAのコンクールを意識した作品が目立ちました。

今後の当クラブのコンクールのあり方も群馬クラブ、新潟クラブの方々と議論し、意義のあるものにしていこうと思います。また、学生にとってもJIAのメンバーとのディスカッションの場を設け、交流を図っていくべきだと思います。

### 2、文化講演会

昨年は、針生さんをお招きし、事業委員会のメンバーによる手づくりの講演会でした。

ごちなく、まとまりのない講演会だったかもしれませんが、今後も、同じ形式でメンバー各位の協力を基に、企画していきたいと考えています。どしどし、御意見を頂きたいものです。



## 建築がまちを つくる

まちづくり特別委員長 川上恵一

まちづくり特別委員長に再び任命されましたが、松本のまちづくりフォーラムの活動以外はこれといったことをしていないので心苦しい次第です。幸いメンバーは若手で、各地区で活躍している人が選ばれたので何かできそうな予感もしています。

昨今まちづくりという言葉があらゆる分野で使われるようになりました。行政や教育、建築の分野はもちろん、市民活動、各企業、ビジネス分野にまで広がり、はやり言葉になっている感さえあり危惧されます。とはいえ建築がまちづくりの大きな要素の一つであることは間違いではなく、建築がまちをつくとさえ言われています。

私達はまず職能である建築を通して『まちづくり』というテーマで話し合い、汗を流す時間と場を用意することから始めようと思います。具体的には私達のメンバーがどのように考え、各地域にどんな活動業績があるか、それらの情報を発見・共有し、今後どうなっていけばいいのかを考えるきっかけにしたいと思います。たかが建築されど建築、それがまちづくりの大きな手助けの一つになると考え、できることから始めたいと思います。



## 年に6回 の発行に

広報委員長 関邦則

広報委員会ではクラブの活動状況報告に加えて、会員の皆さんにおける誌上コミュニケーションを目指して会報の発行を行っている。私が担当してからは、年に4回の発行を守るべく、委員の皆さんに何くれとなくご協力をいただいている。おかげさまで3年経ち、通算12号をお手元に届けることができた。

さて、今年からその発行回数を増やすことになった。年に6回の発行ということは隔月発行ということである。コストもかかるし、発行に伴う作業もかなり忙しくなる。だが、コミュニケーションの手段として、より一層充実を図りたいということであれば、委員会メンバーも増えたので何とか頑張ってみてみたいと思う。内容面はある程度定着してきているので年間の構成を見直してスムーズに記事がつかえるようにしていきたい。まだ会員全員に登場していただけていないので、できるだけ多くの方に誌面に登場していただきたいと考えている。内容についてはやはり建築に関したものでお願いしたい。

原稿依頼のあった際は進んでご協力いただきたいと思えます。さらにお気付きの提案などがありましたら是非お聞かせ下さい。



## これからの 賛助会

賛助会長 坂田守夫

引き続き賛助会長を拝命致しましたが、力不足の為、なかなか思うようには進んでいけません。昨年度は、高橋交流委員長と協力し、懸案であった「コミュニケーションファイル」を作成いたしました。何とか先生方にご活用頂ければと、ささやかな願いを込めております。

新しい内閣が発足し、景気対策等がさげばれておりますが、一朝一夕には進んでいけないのではないかと、先行不安な材料を抱えております。

JIA長野県クラブは、先生方と賛助会が車の両輪のごとく、お互いに助けあいながら、よりよい方向に進んでいけたらと考えております。幸い先生方の暖かいご理解のもと、本年度交流委員会のメンバーを増員して頂き大変ありがとうございました。今後は交流委員会を活発に開催し、メンバー全員のコミュニケーションを図ると共に、お互いに信頼し合ってこの難局を乗り切っていけたら、全国的にも誇りうるJIA長野県クラブになるでしょう。高橋交流委員長と共に本年度も頑張っていきたいと思います。皆様方のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げますと共に、会員の皆様方のご健勝をお祈りします。

## クラブインサイド

### 第3回幹事会

新井 優

6月23日、「サンルート松本」で行いました。クラブ報告で、5月22日の正副会長会において本年度委員会構成について原案をつくったとの説明があった。協議のなかで、特に会員全員が委員会に所属することがJIA長野県クラブの活性化のために望ましいとの考え方で構成案について検討しました。その他、本部支部の報告、会員入退会、事業スケジュール等について報告がありました。

### 第1回広報委員会

関 邦 則

7月22日(水)、松本市のホテルサンルートにて新年度初めての委員会を開催した。過日の総会で今年度から会報は年に6回の発行とすることになった。これまで多くの会員から寄稿いただいているが、賛助会員を含めてまだ未登場の会員も多いので優先的に寄稿をお願いし(テーマは建築に関すること)、コミュニケーションを促進する役目を担っていくことを確認し合った。新年号の広告や賛助会員からの新製品案内等についても意見が出されたので検討していくことになった。

### 第1回総務委員会

関 邦 則

7月22日(水)に松本市のホテルサンルートにて開催。出席者は少なかったが、懸案であった事務所会員及び賛助会員会費の自動引き落とし制度について検討を行った。地域性や個々の事情も勘案して銀行・郵便局の選択が可能ないように研究していきたい。

### 第1回会員委員会

松 下 重 雄

7月24日、サンルート松本にて。新委員会構成と活動の進め方については、(仮称)建築家カタログ発刊事業が加わるため、久保隆夫・新井優副委員長に全般を、倉橋英太郎・久保田三代副委員長に(仮称)建築家カタログ担当をしてもらう。

\*あすなる巡回展は10~11月開催で検討に入る。学生卒業設計コンクール入賞作品も展示。

\*あすなる見学会は「秋・あづみ野方面」で検討に入る。

\* (仮称)建築家カタログは現在参加予定者による地区別班会が行われており専門家のコーディネーター選定の段階へ…。

### 第4回幹事会

川 上 恵 一

7月29日、松本「上土ふれあいホール」で開催。クラブ報告につづいて、本部・支部報告が行われた。クラブの会員委員会では(仮称)建築家カタログ作成部会がいよいよ発刊に向けて動き出し、プロの編集者選定に入る。また、昨年好評だった「あすなる巡回展」の予算について協議した。クラブの活動の活発化なども問題になった。

## クラブアウトサイド

### 第3回支部会員委員会

久保田 三代

6月11日開催。入退会審査は、相変わらず退会者が入会者より多い状況です。会員委員会としては、退会希望者に工夫した慰留文を送付することにしました。会員増強では活動の活発化とJIAの存在の明確化などが話し合われました。

### 第3回本部地域組織整備委員会

出 澤 潔

6月26日開催。第1回全国地域回会長会議についての総括を行い、第2回をJIA大会'98広島で開催すること、地域会未設置支部及び東京・大阪への対応、地域助成費の運用について協議した。

### アーキテクト・ガーデン'98

関 邦 則

今年は服部新支部長の方針で地域会全体の事業として取り組むことになった。場所は昨年同様新宿西口の工学院大学1階アトリウム。7月1日から9日まで開催。実行委員の私は初日の展示作業や交流会には参加できず2日目に訪問。地域会展示スペースは増大したが、企画の趣旨等について再考する必要も感じた。

### 第9回本部地域組織整備委員会

出 澤 潔

7月13日開催。第2回全国地域回会長会議の議題について協議し、地域会が抱えている諸問題は建築家資格制度の問題と切り離すことができないとして議題とすることとした。また、地域助成費運用の具体案について協議した。

### 第4・5回支部保存問題委員会

依 田 政 司

7月4日、8月7日開催。現在、近現代の文化的価値のある建築物の保存について協議・研究中。特に取り壊しの計画がある建築物は所有者や、市町村等に陳情書や要望書を提出。保存や新たな活用を求めている(旧吉田五十八邸・伊伊藤博文邸・日本工業倶楽部等)。群馬県の中央文化会館への対応もできそう。

### 第4回支部総務委員会

高 橋 重 徳

7月15日開催。役員定数の検討を前年度よりの継続で行う。地域会代表者、役員、各委員長、各部会長などにアンケート調査を実施し回収した。今後、回答をまとめた上で委員会として常任幹事会に提出する。



JIA長野県クラブ

編集人 関 邦 則  
発行人 出 澤 潔  
発行所 JIA長野県クラブ  
長野市大字南長野野字  
宮東426-1  
長野県建築士会館内  
TEL 026 (232) 3897  
FAX 026 (232) 5303  
作 成 新建新聞社